

古城の春は

(昭和七年寮歌)

大槻均君 作歌

中村小弥太君 作曲

一

古城の春は老い易く
延齡草の名に問へど
流転の法は断ち難し
友よエルムの鐘を聴け
再建の秋程なけん
ペルアスペラと鳴り響く

二

今移り来し原始林の蔭
宿るは未だ浅けれど
契は深き三百の
心を交はすこの宴
暁かけていざ撞かん
アドアストラの自治の鐘

三

妖雲西に漾へど
視よ落日の悠々と
大地を旋り淪むかな
眠る此の城吾も亦
醒めての生命培はん
四大の荒び明日あれば

四

厳寒凍る極北に
霧立ち騒ぐ曙の
光を担うて起たるとき
際涯もなく寄せ返す
世紀の波濤は狂へども
既倒にかへす力あり

五

竜舵岸打つ大洋の
今人生の船出かな
白帆高くはためきて
正気をはらむ若人の
理想の船は不壊にして
さかまく苦海を永遠に航く